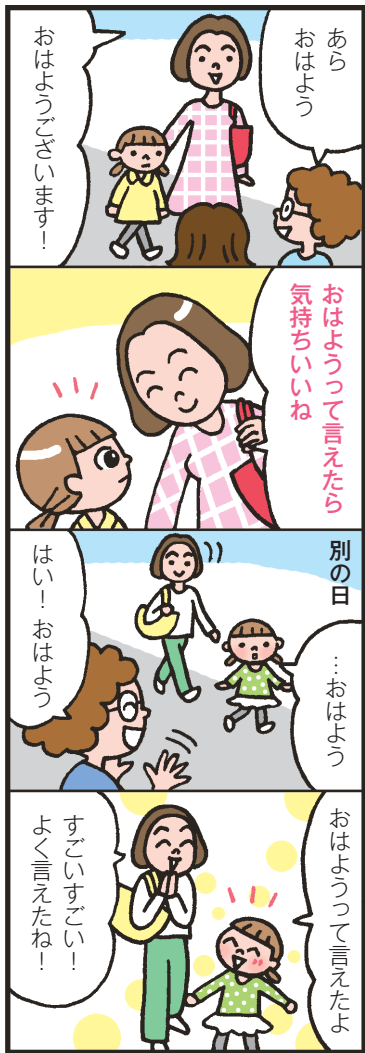


## 無理強いせずに、親がお手本を見せ続けよう！

あいさつができなくても、幼児であれば、深刻に捉える必要はありません。子育て経験者なら、恥ずかしくてあいさつできない子がいるのは知っています。「すみません。恥ずかしがり屋で」などと申し訳なさそうに言っておけば、角は立ちません。あいさつができなかったからといって、「おはようも言えないと、みんなに嫌われちゃうよ！」など、子どもを責めるような言葉は決して言わないでください。責められると、子どもは萎縮し、あいさつⅡイヤなこととして記憶され、あいさつへの苦手意識がさらに強まってしまいます。

そういう時は、叱るのではなく、親が笑顔であいさつして、お手本を見せ続け、「おはようって言えたらステキだね」などと、穏やかに促しましょう。やがて、子どもも自然に真似してあいさつするようになります。その時は、小さな声だったとしても、ぜひ盛大にほめてあげてください。



### Check

あいさつの習慣がない大きな子の場合、「あいさつは人間関係を円滑にするために大切」だと必要性を伝えて身につけさせましょう。また、あいさつができた時にほめられると、あいさつⅡ嬉しいことと記憶され、またしようと思うため、できた時にはしっかりとほめましょう。